

特240

932

戰時經濟講話集 (第二輯)

長期建設と經濟統制

小川郷太郎 述

697

刊社政行工商



* 0023956000 *

0023956-000

特240-932

長期建設と經濟統制

小川郷太郎・述

商工行政社

昭和14

ADD

特240
932



長期建設と
經濟統制

小川郷太郎



長期建設と物資統制 昨年私が濱松市を廻つて此處に織維工業……日本の非常に大きな誇りとするやうな産業が成立つて居ることを承知して居るのであります。で此の産業がどういふ風に進んで行くかといふことは平時に於きましても日本國民の皆な注目してゐる所であります。戦争になりました統制が強くなつて來ると、どういふ風に是が成行るか私は常に關心をもつて觀て居つたのであります。戦時の統制は可なり苦しい、皆様の中には相當に苦しみを痛感せられて居ることだらうと思ふのであります。

戦争が一段落をしたならば其の統制が何か變つて來るのでないかと、斯ういふことは誰でも考へられる、統制は一體何時迄續くのかと斯ういふやうな疑問をもつことでありませう。そこで私はさういふ問題に一つ私自己の意見を以て答てみたいと思ふのであります。

畢竟漢口が陥落し、廣東が陥落したらば戦争が一段落となるではないか、さういふやうに皆な考へて居たのであります。そこで長期建設といふ言葉が現れて來た、是は一體何を意味してゐるのか、日露戦争の時分に奉天の大會戦がありました、是で兎に角戦争が一段落したのであります。それでポーツマスの條約が締結されるのに及んだのであります。所が今度はさういふ風

に行くか、漢口は陥ちた、廣東も陥ちた。丁度日露戦争に於ける奉天の戦争に似たやうなものだ、で先の事でもありますから神様でない限りさうきつぱりした事は言へませぬが、今の大體の成行を見てみると却々さういふやうに行かぬのではないか、近衛内閣は昨年一月十八日の聲明に蔣介石を相手にせずと言つて居ります。蔣介石と和を講じない、蔣介石は雲南に逃げて四川省に逃げて貴州に逃げても逃げる所はまだある、ポーツマスの條約は此方からみても出来さうもない。況や蔣介石は是からまだ日本に抵抗して行くといふのです、日本ぢやもう参つたらうと思ふが向ふはまだ参らないといふのです。況や敵の作戦は消耗戦といふので日本の力を消耗してなくしてしまふ、日本が疲れて、しまいにへたばつてしまつて、それで勝つのだと斯う言つてる。又今言ふことも支那人には皆な尤もに聽えるのです。

一體支那では最後に勝利を得る者は必ずしも初めに勝たない、革命で天下をとる者を見よです。初めは敗けるのであるが後には勝つのである、漢の高祖でも敗けてをつた。で項羽は實に強く常に勝つたが最後にどうですか項羽は敗れちやつた。遂に漢の高祖が天下をとつた。であるから蔣介石もさういふものだといふのです。初め一年は敗けるのが豫定です。其次は遊撃戦

三年目になつて今度は勝つて來る、斯う言つてる。さういふ意味から言へば却々蔣介石は一寸直ぐには参らぬぢやないかと思ふのです。

そこで戦争に長期戦といふ言葉が随分今日迄使はれて來たのですが、所が最近になつて長期戦が長期建設といふやうな言葉になつて來た。では蔣介石と和を講じない限りは蔣介石が雲南に行つても或は貴州に行つても四川に行つても和を講じないのですから、やつぱり戦争をやつてるのです。やつてるけれ共若し四川省や雲南何かに入ればもう今日日本の新聞紙で言はれてゐる通り地方軍閥、地方政權なんです。地圖の上では大分大きいけれ共……大きけれ共、力はやつぱり地方軍閥なんです。こちらはこちらでやるのですが、蔣介石が講和をしないと、斯ういふ態度をとつて來た時分には武漢三鎮を攻略するやうな、あゝいふ場面は見えぬかも知りませぬが……だからして日本から言へば、もう大體、勝つたんだ、と斯ういふことは言へませぬが、若し蔣介石の軍が湖南に大軍が入つて長沙衡陽に入りますれば此の何十萬……二十萬三十萬といふ兵が居るぢやないかと思ふのです。此兵が入りましたならばやはり放つて置けな

いちやないか、南昌に入れば——南昌は徳安の一寸南です、——其處から長沙の方に行く、どうもやはりさうするところ、に又遊撃戦ぢやなく大きな戦争があるぢやないか、此事は軍事上の事でありますから私には分りませぬ。併しさういふ大會戦が無くても遊撃戦みたやうなものは蔣介石との間に長く續く、何時迄續くか分らない。少くとも蔣介石の行く所に日本の飛行機は飛んで行くに相違ない、併しそれはどつちでも良い、それはどつちでも良いが、今度は日本の仕事は蔣介石を何處迄も行く所に飛行機や何かでやつけて行くといふ戦争の外に大軍を以て行くかも知れないが、さういふ戦争をするより外にもう一つ日本の大使命——今迄此の支那を占據した……占領と言はず占據したと言ふが、事實は占領と同じことです。宣戦布告をしてゐないから占領と言はず、占據と言つて居りますが、事實上占領であります、……此大きな所を占領して一體其處はものになつてゐるか、斯う言ひますと甚だ遺憾であります、大きな風が通り過ぎたやうな譯で、通り過ぎた所は草も木も靡いて居りますが、其の颯風が過ぎ去つた其後はやはり草や木がウント頭をねせてゐるぢやないか、そこでさうであるならば草も木も靡かすやうにやらなければならぬ、支那をものにするといふ仕事をせなければならぬ。支那が大

風の爲に、例へば打毀された、ぶち毀されたものを建直して行く、其處に建設といふ言葉が起つて來るのであります。此の建設といふことが口では言ふけれ共却々容易ぢやない。

今一寸私は斯んな事を考へて居ります。石炭が高いでせう、あなた方は工場を建て、何か機械を動かすと云へば、石炭だ。其の石炭は物價統制で大分抑へとるが石炭が高いので石炭は焚けない、私などは中學で地理を習つた時には日本は石炭は出ると言つてゐたのに其の石炭が不足してゐる、又鐵は足りない、足りない其鐵を拵へるのに日本製鐵とか其他でエライ勢で精製して非常に澤山の鐵を拵へるといふ計畫をしてゐるが却々直ぐ出來るものでない。鑛鑛爐を作るのに鐵が要る、其次に以て石炭が要るでせう、石炭のコークスとそれと鐵と一緒に鑛鑛爐にぶち込んで今のやうな銑鐵が出來るのであります。其ことを考へると戦争には鐵が要る、其鐵を拵へるにしてもどうしたらよいか、鐵は無い、石炭が無い、其の石炭を何處から持つて來るか、滿洲にある。支那に澤山ある。今迄も支那から坊子の石炭を大部分とつた、日華合辦で、大體日本の勢力圏内にありますが、あれではまだ足りない。八幡製鐵所も非常に大きな規模になつた、製鐵所にも石炭がウントと要る、所が山西の石炭が澤山ある、大冶に鐵山がある、そ

れをものにしたら良いぢやないかと斯う言ひます。併しそれが、無限の石炭が山西にはある、だがそれをどうして日本に持つて来るか、それを持つて来るには鐵道があるでせう。其の鐵道は洵に、今軍隊を運ぶのにも容易ぢやないから、石炭なにか運べるものぢやない、又それを港に持つて来たとしても港は……天津の港は石炭を積む設備がない、港を拵へなければならぬ、それには鐵が要る。機械を持つて行かなければならぬ、どうしてやるか、それには山東の鐵を引張つて來るとしても敗殘兵があちこちに出て來るといふ譯で、敗殘兵に對しては却々此頃の新聞にも出てゐるやうであります、赤軍が言ふゲリラ戦といふは、敗殘兵を言ふのです。日本兵が來るといふと百姓の顔をする、居なければ兵隊だ、良民を脅す、だから是をやつ、けなければ赤軍の命を聽いて日本の方には従はないやうになる、日本の一番さういふやうな鐵とか石炭の澤山出る所に以て行つて之を障げとるといふ譯です。

例へば棉花を栽培しよう斯う云つて、それを支那開發の一つの方針として行くと赤軍の奴は直ぐそんな事をやつちやいかぬ、お前らは飯が食へぬではないか、支那人は食料品を作つたら良い、棉花なんか作るなど、ひつくり返してしまふ。それだから日本が日本の經濟と連絡をし

て支那を開發しやうとしても今のやうな状態では手も足も出ないのであります。之をものにするにはどうしますか。第一に治安の回復を圖らなければならぬ、今のやうに赤軍があちらにもこちらにも散在してゲリラ戦をし、或は今のやうな宣傳工作によつて日本のやること……やり方に反對しようといふ者を、やつ、けなければならぬのです。治安の工作です。それから次に經濟工作、文化工作です。支那人は何と言ひましても排日です。軍隊をもつて行つたから日本に屈服するので、兎に角蔣介石が長い間訓練して蔣介石が支那を統一した、何によつてでありますか、排日といふことが旗印ぢやありませんか、蔣介石は、もとは共產主義ぢやない、會ては共產黨ぢやなかつたのですが、然るに一昨年西安に囚れてから後に態度が變つた、どうしたのかと言へば共產黨と手を握つた、排日です。排日といふことが蔣介石と共產黨とが一致した旗印であります。

之を以て、支那國民を奮ひ起した、之を以て、支那の國民を教育した、支那の人間の頭にこびり着いた、此の排日の思想を、塗つたのであります。それでありますから今日本の兵隊が行つて居る所だけは、支那人がお辭儀をして居りますければ共腹の底から支那人が日本に服するのではない。それでありますからして、支那人の心をとらへるといふ政策が必要なんだ、それが文

化政策です。後から直さう、といふことは容易ぢやないが、併し、支那人の福祉を圖るのには少くとも……少くとも、支那人が土に安んずるやうに、他の言葉を以て言へば、業に安んじて業を樂しむ……仕事が無く飯が食へないから直ぐ匪賊になるぢやないか、今支那は荒果てて居ります。戦争の爲に、所謂水害の爲に荒果て、居ります。飯が食へない、ものを治めて行くには飯の食へるやうに指導しなければならぬ、是は大變な仕事である。だからさういふ事をやるのには各自治政府をどうかしなければならぬ。蔣介石は何と言つても偉人ぢやないか日本では馬鹿の骨頂だと言つてゐるが、支那人ぢや英雄です。又外國人から觀てもやはり蔣介石は偉いと言つてゐる。蔣介石の外に一體誰が支那を統一する者がある、斯ういふことだ併し却々實際は乏しいらしいです。そこで支那を日本が、之を侵略してとつて支那人を治めやうと思へば、そこに政治的の一つの體勢を整へなければならぬでせう。今は、是が維新政府でありますとか、或は北京の臨時政府でありますとか、斯ういふ者があります。是は日本が後ろから後見をしてゐるので、後見して居つて、其の後見の力でもつて居るのですが、あれがどれだけの力

があるか、まだ却々前途遼遠だ。是から漢口が落ちたから漢口に以て又政權が出来るかも知れない、さういふやうな政權が地方的に出来ても中央政府が無いから拵へるといふことを考へなければならぬ、蔣介石中央政權はぶち破つてゐるのだから支那國民を代表すべき政權がなければならぬぢやないか、さういふ事に考至れば政治上左様ならといふことになつてはいかない、今度は氣長に座り込むといふことになります。それが長期計畫長期抗戦です。誰が考へてみても半ヶ年一ヶ年でさういふ仕事は出来ない、で、日本も戦争した限りは、皆さんはどうか……吾々は記憶が乏しくなつて困るのでありますが、随分ひどい目に遭つたといふ記憶はもつてゐるのでありますが、日露戦争とは違つてゐる、日清戦争とも違つてゐる、だから今度の戦争は兎に角私は戦争とは言はないが、日本の開關以來是位大きな戦争はないと思つて居ります。國力を盡して、兵隊を出す數、兵隊を出した數で言つても日本に例のないのです。それ位吾々の同胞が支那に行つて戦つてゐるのです。之を無意義なものにしてはならぬのです。

之を有意義なものにしなければならぬ。どうしても日本が飛躍する一つの段階にしなければならぬのです。今は序幕をやつたのです。我同胞は手に武器を持つて戦つたのです。兎に角

暴風の如く荒廻つたのです。ものにするのは是からの日本國民です。其處に吾々の使命があるさう考へてみると長期といふ言葉が出たのは偶然でない、氣長の話であると仰しやるけれ共能く考へて御覽なさい、是は却々時が要る。それを戦争と結付けて長期戦と言ひ、支那をもつにする、新しい支那を更生支那と言ひます。實際に今迄の支那はどうも洵に始末におへない支那であるが、今度生れ變つた支那は良い子だ。良い子には誰がするか、日本の力である。そしてみるといふと此處に非常な日本の大きな使命があるが、其の仕事成し遂げるのには又大變な力が要る、どうしたら良いか、若し無限の武器と無限の力といふものがあるならば問題はありませぬ、けれ共いかなる國であつても富は無限に非ず。人は無限に非ず。力は無限でない。アメリカの如き世界第一の富を有してゐる國でもどうです。ヨーロッパ戦争の時分には物資が足りない、ものが足りなくて日本の今日如くやつぱり統制をやつたんです。今日本はのるかそのかの大きな戦争をやつてる、力で借金せずにやつてる、日露戦争も日清戦争も皆な借金した其の時分には又ロシアは悪まれてゐた、イギリスもアメリカも日露戦争の時分には日本に最負したものであります。高橋是清さんが金を貸してくれと向ふに行くと直ぐに貸したものであり

ます。軍艦は直ぐに日本に賣つてくれたぢやないか、それが今はどうです、もう實に氣障でたまらないと言つてゐるぢやないか、貸してくれやしないのです。長期攻戦になつて……長期建設に入る時分に貸してくれるかといふにそれは考へものです。さういふやうになつてくれたら結構だけれ共、今のやうな世界を通じての悪氣流から見るとどうもさうばかりも言はれぬぢやないか、人も金も、資本國の金を貸りないでやる、日本の富は無限に非ず、それを以て長い間……蔣介石との平和條約が締結されるか分りやしない、それを相手にして片方に今度の新しい政權は子供だ、滿洲も子供だが今度のはまだ赤子です。其の赤子を抱いてるやうなものです、其處から言へば長期戦とも言へるし、長期建設とも言へる譯であります。

物動計畫に就て 今度此の統制といふやうなことは、ものに對し、人に對し……物に對して言ひますと物資統制といふことを言ひます。金に對しては資金の統制といふことを言ひます。金と物とが一緒になつて、物價の統制といふものが考へられる、物と言つても、金と言つても物價と言ひまして大體物資的の話でありまして、それには人間……人間の統制といふこともあるのであります。さういふやうな一種の統制です。放つて置いてはいかぬのです。何か日本

人……人間の力といふものを旨く結付け、物も旨く結付ける、さういふ所で、吾々の能率が發揮せられるのであります。勝手にやらしてみたら要らぬ所に使ふぢやないか、鐵は戦争の爲に一番必要だといふのであります。其鐵を他の方に使つたら……戦争の役に立たない所に使つても使へる、其所に使つたら戦争は出来ぬぢやないか、斯ういふことになります。同じ鐵を使つても大きな遊び場所の建築をやるにも鐵が要る、けれ共そんな事は今無用ぢやないか、それ等は鐵砲を打つ彈丸に必要なだ、斯ういふことになるのであります。何か鹽梅して見なければ、自然の儘にして置いては、金が儲かる方に行く美術的の品物を拵へると儲るから其方に行くでせう、さういふやうになつちや今のやうな大きな芝居が打てないから現在の日本の物資と日本の人間の力とをそれを旨く鹽梅して能率の發揮し易いやうにしよう、それが統制なんです。統制はいやと思ふけれ共軍隊式なんです。實は兵隊さんも自分の郷里に歸ればあまり強くない朝寝坊もします、夜ふかしもしませう。所が兵隊に行つたら朝寝坊も夜ふかしもしない、あゝいふ隊伍に組まれたら一、二、三……向ふ所敵なしでせう、兎に角一つの仕組によつた力といふものは恐しいものであります。同じ物であつても仕組を與へるといふこと、仕組を與へな

いといふことでは是は差がある、力を發揮するものもあるし力を發揮せざるものもある、鐵の統制といふ事が出てくるのはさういふ所から來てゐると思ふのであります。で、今の戦争をやつてる時分の統制が長期建設になつて統制がどういふ風に變るだらうかといふことになるといふと、私は之をもう少し違つた言葉で之を現してみようと思ふ、現在の統制はどういふ所から來るか、斯う言ひますと今申しました戦争に勝たんが爲にやるのだ、戦争に必要な品物を先づやるので、戦争に尊い物は我慢してくれ、是が趣旨なんだ、そこでさういふ趣旨から統制の計畫が出来て居るのです。統制といふは生産から、消費から、配當から、貿易から色々な統制といふものが出来て居りますが、さういふ色々な統制が作戰計畫なんです。作戰計畫……さういふ作戰の計畫の基本のものがある譯ですが、其の基本のものは世間で謂ふ所の重要物資需給計畫といふものです。其の需給計畫といふものは世間では物資動員計畫と言つても居りませうし、之を更に略して……制限が流行しますが、物動計畫と云つて居ります。能く動員といふは御承知の通り兵隊將校が、應召して大きな軍隊となつて支那へ行くでせう、それは動員でせうそれと同じように物が動員せられたら今迄平時の仕事をやつて居つたものが鐵砲を拵へる、彈

薬を拵へる弾丸を拵へると、斯ういふ風に向けなければならぬ、平素アンモニヤを拵へたものが弾薬を拵へる、直ぐ方向轉換が出来るのであります。戦争に役に立つやうな方面に一時行くといふのが物資動員といふ言葉なんです。物動といふものは戦争に勝つやうな風に眞鍮を拵へるといふ其の言葉自身が戦争に關りのないものは控へ目にして貰ふといふことになつてゐる譯であります。それがどういふ風に出来るかと言へば日本の物資は皆ではない、第一に鐵非鐵金屬——鉛とか、眞鍮、銅とかさういふやうなものです。それから油——石油、戦争は何と云つても石油でやつてるので、軍艦は重油、飛行機はガソリン、自動車はガソリン、トラックそれから人を運ぶ自動車が戦争には非常に意味をもつて居ります。油がなかりせば戦争は出来ぬ、其次に以て纖維工業品、——毛とか綿とか、ス、フとかさういふやうなもの、斯ういふ順序ですつと行きました、鐵が今日どれだけ要る、石炭がどれだけ要る、軍需にどれだけ要る、どれだけ外國から買ふと、それから民需の方へどれだけ出すと、斯ういふやうに多くの品物に付いて民需と軍需と斯ういふ風に分けて、日本で出来るものと外國から輸入するものと、さういふやうなものを分けて出来たものが是が所謂物動計畫なのであります。それは勿論戦争

に……軍需の方に要るだけ出して民需をウント減じたやうな風に出来て計畫がある譯なのであります。其の計畫によつて今やつとる譯です。民需の方のものが輸入を制限される、平時のものを減ずるといふことは斯ういふことが物動計畫の中にチャンとあるのであります。それでそれを實行してゐる計畫でありますから物動計畫は即ち統制計畫の基本を爲してゐると、斯う申して良いではなからうかと思ふのであります。是は一體何時出来たのか、一昨年位から考へて昨年一月の十八日に出た。蔣介石を相手にせずの聲明が一月十六日にあつて其の二日後に即ちもう長期戦、其の時分から長期戦を考へてゐるから、ウント是は物動計畫で今迄平和の事業に向つて居つたものを戦争の方へ向けなければならぬといふ所で一つの案が出来た譯で、それが一月十八日の閣議で決つたんであります。所がそれが六月二十三日に大改訂をされた、改正されたんであります。どういふやうに改正されたかと言ひますと、其の數字とか何とかは言ふことは言へる……言へる話でありませぬが、其の事實上の變つた事を申上げてみたいと思ひます。

第一物動計畫といふは形は、今のやうなもの、民需、軍需とか輸入とか、内地生産とか、内地供給とかいふやうなことを書いて居ります共、それが出来て来る所以なるものは物が足

らないかち外國で物を買ふことになる、買ふ力は何か、買ふ力といふ上から出た計畫になるの
であります。

第一正金であります。正金は無い、輸入力といふは正金であるべきであります、日本は正
金を澤山持つてゐないで、どん／＼産金をやることになつて二億四五千萬圓は考へられたので
ありますが、そんなに金が出ないらしい、二億圓位ぢやないかと思ふのであります。それが外
國から買ふ力であります。輸入力と之を謂つて居ります。其他に船や何か外國で稼いで来て、
さうしてつまり外貨を得て來ますからしてそれで品物が買へるのであります。之を貿易外の受
取勘定と言つてゐるものです。其他多少まだあるが一番は船が一番稼ぐのですが、船は戦争によ
つて皆さん御承知の通りどれだけの軍隊が船を要求して居るかをお考になつたら、外國の荷物
を運んでそれで運賃を澤山とるといふことが出來ないことは直ぐお分りと思ふ、殊に吾々が新
聞を見ましても軍事の事は素人ではありますが、素人の想像から致しましても黄河をとつて鄭州
に行つたでせう、鄭州から京漢線によつて南下してそして武漢三鎮の、つまり漢口を攻めるこ
とは誰でも直ぐ分つた、當然と思ふ、所が鄭州の邊になつてポツと行かなくなつた、黄河を切

られた譯であります。是は日本の作戦にも考へられてることと思ふがそこは支那人なんです。
實は黄河をぶち壊して土手を切つちまつた、何でも無い日本では直ぐに工兵が行つて築き上げ
て揚子江の所に行つとるぢやないか、兵隊さんは船に乗つて揚子江を溯つてゐるぢやないか、さ
うしますといふと今より船が澤山要るといふことになる、其事を考へましても、考へて見れば
船が稼いでくれると思つておいでになると、どういふことになるだらう、そして外國に物を賣
つて行く、輸出であります。其の輸出が困難ですが、即ち輸入力は輸出と、産金が二億圓それ
から貿易外の受取が多少あるでせうから、之等を合せて大雑ばに三億と見たら良いと思ふので
す。三億としませう説明の爲に……、日本が外國から物を買ふ力といふものは、三億位なもの
です。それより上は買入ない、以前は日本の金がウントあるから何でも買へたのであります。
ヨーロッパ戦争の時分から相當金を儲けた其の貯金を引出して買つて來た、去年なんかといふ
ものは公開には話せないが相當な金が出てゐるぢやありませんか、兩三年前なにか相當の例が
無い程物資が外國から來た、所が今はそれが出來ない、戦争が濟んだ時分にそれが出來ないと
は皮肉である。それに輸出によつて稼がなければならぬ、輸出によつて外國から物を買つて

來て戦争をやらなければならぬといふ境遇になつて來たのであります。所が昨年一月十八日から半年経つて統制は非常に變つて來た、どういふ風に變つたか。第一に輸出がおかしくなつたのです。去年よりウントと輸出が減つた、隠しやうがない、實力が其處に現はれたんです。従て輸出が減るだけ外國から物を買つて來れないといふことになるでせう、其次にもう一つ困つた事は日本の輸出を分析して見ますといふと支那の占領地域、滿洲、關東州、斯いふ風の出す品物が非常に多いので、之を圓ブロックと今謂つて居ます。即ち日本の圓とリンクになつた所です。日本の圓一圓と向ふの一元とリンクした、連繋して居るとのつまりは圓ブロックといふことを例を以て言へば、日本が自分の家庭をもつて、子供が居る、其子供が變な使ひ方をすると其尻ぬぐいは親父が錢を出す。外國の爲替の關係上さういふことになれば日本が尻ぬぐふといふことになる、さうしなければ日本の一圓が一シリリング二ペンスとならない、それを維持しようと思へば滿洲の金も北支の金も一シリリング二ペンスで替へれるやうにしなければならぬのであります。其處に實力があれば良いが實力がなければ親にかゝつて來る、即ち日本が尻ぬぐいするといふことになる、圓元等價とか圓にリンクするといふと成程お山の大将が

將軍みたやうな顔をして偉さうに見へるが尻ぬぐいをしなければならぬといふつらい所がある圓にリンクするとか言つて大きな顔をしてゐるが、實力が伴はないで大きな顔をするといふとそこに、非常に困つた事が出来る、それが、現在は以前の貿易に於きましては支那に輸出すれば法幣はポンドに替られる外貨の一つであつたが、今の北支のあの中國聯邦準備銀行券を以ては之をポンドと替へようとしても替はれないのです。それは圓の親類だがポンドの親類ぢやない、お角違ひですと斯う言つて斷られる、そこで支那や滿洲へ物を賣つたとしても歸つて來るものはやはり圓です。圓の親類だ、決して外貨ぢやないのです。だから外國貿易で大分輸出が出とるぢやないかといふけれ共開けて見ればびつくりだ、其の半分程は支那や滿洲へ行つてゐるのです。鐵や石油を買はうとした所で今輸出の約半分……一寸以上でせうが上位しか買へる力がない。輸入力といふはさういふ風に減つて來たのです。それが一月十八日迄はまださうとは思はなかつた、圓ブロックの方に出すものはそこまで澤山とも思はなかつたが、押すなくで思はなかつた。是では一寸戦争に困るからそれで是が品物は第三國に賣るやうには親類へ持つて行つては……行かなければならぬけれ共、今は戦争が大事であ

るからして圓ブロックの方の輸出は多少制限するといふやうなとんでもないおかしな沙汰が現はれて来たのは尤も多少斯ういふ事情もあるのです。政府がさういふ事を考へられたのも私は無理でない所があると思ひます、中國聯合準備銀行券がどうも値下る、で法幣の値が下るに付いて北方券と南方券とが向ふにある、北支那に於いては北方券だ、其の北方券も下つて行くのです。それに引つられて中國聯合銀行券の値が下るのであります、下れば能く日本にもありません。それでせうが、還物運動なんです、金が下るからものに變へる、日本の品物を持つて来いといふので還物運動が盛んに起つて来た譯です、そこで物があつちに行つたのです、さういふやうな色々な事情で行き過ぎて、一昨年より餘りに行き過ぎたから一寸待てといふのが圓ブロックに對する輸出制限といふことになるのであります。甚だ餘談になつて行きましたが、さういふ形になつて来ましたのです。

そこで物動計畫を考へて見れば輸出力が……輸入力が無い、輸出が少なくなつた、それに半分といふ、凡そ半分位しか金がない、そこにもう一つ困つた事が起つた、國際收支の上で困つた事は、一つは戦線が擴大して、今迄初めは私は廣東それから武漢三鎮をやつゝけるといふ迄

には出來てゐなかつたのではないかと思ふのです。一月十八日の計畫は段々歩を進めて武漢三鎮迄行き廣東迄も行くことになつて來まして、さういふ方針が決まるといふと今迄の軍需品ぢや足りない、従て外國から軍需品の相當なものを……鐵や石油みたやうなものを買ふには以前の計畫では足りない、もつと計畫を大きくする、もつと買ふ、軍需系統のものをもつと買ふ力はどうか、買ふ力はウントと減つてるといふので、一月十八日の物動計畫ぢや足りないといふので、そこで六月二十三日の物動計畫なるものが根本的の改訂だ、一月十八日の物動計畫に於いては棉花等は禁ずるといふことはさう必要でなかつた、今度は外國へ輸出するもの、原料なら良い、又軍需品なら致仕方ないが、其他のものは、内地で着物を着るといふやうなものはまあ控へたら良いぢやないか、斯ういふことで、内地向の綿布を拵へるといふことは廢めた、其の方面の輸入は許さないぞ、従て其の方の製品も許さないといふことになつた、併しそれを言つたらびつくりする程エラク買つたんです。エラク買つとるのですが、どうもそれには言ふに言はれぬ所がある譯です。其他にも統制規程もありますけれども共此邊は綿の纖維工業の中心でありますから、綿に就いて言ふならば一番能くお分りになるだらうと思ひます。

物動計畫は此の如くして軍需品第一主義で其他のものは我慢することになつてそれで一番金を稼ぐ、又外國からの輸入の大源である、大源でありますものに一番ひどくメスを入れた、即ち喬木風を闖ぐであなた、喬木だから暴風に當てられた譯です。で當てられたあなた方からみればお氣の毒でありますけれ共、戦争に勝つといふ其の根本の原因でさうなつたんで洵に致方ない、皆様の不自由を放任してちやない、氣の毒だけ共我慢してくれと是が日本の國の心と思ふ、統制は其處なんです。そこでさうなつて來ますと、そんなら斯う考へ方もある、一體戦争して勝たなければならぬなら金は減らしても良いぢやないか、といふ議論が却々ある、併し着物は去年着た着物がなせいけない、襦袢でも行けるぢやないか、貧乏であつた時分には襦袢を着たが今は着れ無いのは日本が贅澤になつたので、それならば凍へるぢやないかといふが其邊が戦争です。何處迄も勝たうといふ一種の武士の意氣地であります。で、私にか斯ういふことを聞いたんでありますが、併しまだ實際あるぢやないかといふ考へ方です。一寸何處だか分らぬけれ共、綿はあるではないか、他人から買った譯ぢやないが理論的に出て來る八億五千萬圓も棉花を十一、十二年は輸入した、此ものが輸出には六億幾らとなつるとるそれには勞賃

があるぢやないか利益があるぢやないか、さう考へて見れば十一、十二年が八億五千萬圓の輸入原料でそれを製造した時分には幾らになる、輸出したものが、之を原料から見れば黒人が見れば分つちやう、内に残つとるぢやないか、大變なものが残つてるといふ算盤が出るぢやないか、何處にあるか知らない、何處かに……日本の何處かにあるのです……棉花を制限しても日本は參つてしまやせぬといふ場合も一つはあります……是で少し苦しいから知らぬけれ共やつて行けるのだといふのが物動計畫の最後の斷です。石炭は其處にある、鐵もある、併し綿がなくても、無ければ一つ消費節約——我慢すれば良いどうも子供が出來て困る、家族が殖へて困るなら代用品で行かうぢやないか、ス・フで良いぢやないか、ス・フはどうも洵に着たら冷たい、水に弱いか何とか色々な難癖があるけれ共、國が貧しくなつた時分には、貧乏になつた時分には堪らへても良いぢやないか、是が一つの考へ方です、尙其上に絹といふ纖維もあるぢやないか、又人絹も發達して居るぢやないか、色々なものを組合せたら出來るぢやないか代用品を今……紙を原料としてでも紙の纖維で出來るぢやないか、代用品で行かうぢやないかといふ考が起つた、代用品といふものは、是は私は艱難汝を玉にすで、窮すれば通するで、

イツがやつたことです、ドイツは物資の無い國なんです、そして日本のやうな風に戦闘體形を作つて、外國から物が入らない、どうして行つたか、ドイツの學者、技術家、國民みんながドイツのもので間に合さうぢやないかといふので代用品を考へたのです。智利硝石が來ないで硫酸アンモニヤが出來ないと彈藥が出來ない、空氣中に窒素があるからとつたらと、即ち固定するといふ考案が其處に出て來たのであります。ドイツのものを以て間に合せて行く、それが科學の力です、技術の力です。人間の力です。窮して通ずる、其處からドイツの新しい工業が出來たのであります。さういふ風に日本も物動計畫に依つて、外國から輸入が出來ない物は打撃を蒙るか知らぬが、之をやる代用品工業をやる、そこに一つの示唆が示されて居る譯であります。だから、其次に物を外國から入れなければ廢物の利用をやつたら良いぢやないか、廢物の回収も、其の物動計畫から出た新しい一つの經濟政策であります。日本人は一度使つて直ぐ捨てしまふが、能く選んでやり直しをしたらそこに一つの新しい役に立つものが出立來るぢやないか、ゴムなんか又再生ゴムを拵へたら立派なゴムが出來て來るぢやないか、ドイツが今ヒツトラーが國民を率ひて一つになつてやつてる。

廢品回収運動に就いてはヒツトラーのやり方には感心して良い所があります。どういふ事をやつたかといふと政黨も皆んな活躍して政黨が皆んな講堂に行つて廢物を大事にしなければならぬといふのである。先づそれを三種に區別することが出來る、第一は空函がある、金物です之をやり直しさへすれば何時でも元に戻せる、其次に食物の残りがあるぢやないか、汚ないものでも豚に食はせれば良いぢやないか、豚に食はせるやうにする、紙とか或はそれから襤褸があるそれはパルプに戻せば良い、僅かな芥溜にも役に立つものがある。それを皆んな役に立たせるやうにしようぢやないかといふ運動です。廢物の中から役に立つものを見出したドイツ國民がしただけのことをすれば、さういふことが出來て來る。日本でもさういふものがあるぢやないか、併しまだ其處まで行つてゐないでせう、行つてゐないのはまだ窮してゐないと斯うも言へる、即ち廢物利用の運動も考へられてゐるのです。此の物動計畫は私は人間の勇躍によつて此の難關を抜け出ることが出來るぢやないか、とそれを國民に願うのです。其の精神總動員といふものがあるならば精神總動員は其處でんです、私はそれを言はない精神總動員はたゞ觀念だけだと思ふ、日本の今やらうとしてゐるのは其事であります、平和工業に従事されてる

お方は随分御不自由なんでせうが日本の現状を、今の事情を、長期抗戦で耐へて行かなければならぬ、さういふ所です。そこで吾々はどうかといふことを考へなければならぬと思ふのであります。

それが、先づ戦時統制なのであります。長期建設はどうなるか、斯ういふ長期建設になりましたならば、今迄のやうな奉天戦といふやうなものはない、直接の戦争もない、今度はさう大した大きな戦争のやうな遊撃戦になるのです。——それならば、鐵の要る分量は少なくなるぢやないか、斯ういふ考は一應起りますが。併し同時に今迄申しました、支那を建設して行く經濟的建設には鐵道が必要である、港灣が要る、鐵を大冶からとるにしても機械を持つて行かなければならない、鐵砲を打つにも鐵が要るが今度支那を開發するにも鐵が要るのです。目的は多少違ふかも知らぬが、鐵を要することに至つては一つなんです。それから分量がどれ位要るか、是は次に起る問題であります。どれだけの分量が要るかといふことは先づ其の支那の建設をどれ位の規模でやるかといふことです。それは早くやるか遅くやるかといふことです。何處へ鐵道を通して行くか、汽車ですつと送るかは大體の支那大陸經營の方針にかゝることなの

であります。かくてどれだけ鐵が要る、どれだけ建設の爲に物資が要るといふやうなことは言へませぬが、國論が次第になつて官にゐる人の考も何處かに落着いて行つて一種の物動計畫といふやうなものが又出来るぢやないかと思ふのであります。戦争が濟んでも、……長期戦の間は戦争があるが大規模ではない戦争です。それに今度は長期建設といふ一種の物資の要る絶対に必要なものが出て來たんでありますから、それをすつと、大事なものから其次と物の使ひ方を決めて行く、亂脈でなく決めて行くことになりますと、前申しましたやうに奢侈の爲めに、要らぬでも良いやうなものに物資を使ひ金を使ふ譯にも行かない、それは日本の國が大きな發展をする爲にそれでは都合良くないから、一番必要なものから其次に必要なものへと見透すといふやうなもの、大體の計畫といふやうなものが出て來るぢやないかと思ふのです。

今謂ふ物動計畫、それに對して滿洲の開発の滿洲五ヶ年計畫がある、日本も企畫院では物動計畫といふものを生産力の擴充と今言つて居ます。生産を擴充して、其の方面が充分でないから擴充計畫を樹てる、今それは四年です、それに今度は支那をもにするといふ其の方面の計畫です。日滿支、之を一緒にしての經濟ブロックと言ひます。此の經濟ブロックをどういふ風

にして經營して行くかといふ譯で滿洲にどれだけ金が、物資が、要る、支那にはどれだけ金、物資が要る、日本には物資がどれだけ、金がどれだけあると斯ういふやうな風に計畫が樹てられる、其の計畫を何かと言へば、それがつまり計畫經濟なんだらうと思ふのであります。即ち片方から言へば統制なんです統制なくして經濟は行はれないだらうと思ふのであります。只今の物動計畫だけに引づられて行つてやうなさういふ統制ではなくして、今度は日滿支を一つに擱んでそうして之をもものにして行かうといふやうに樹てられる所の計畫、其の計畫に従つて物資を鹽梅する、資金を鹽梅する、人間を鹽梅するといふ所に統制が出来、此の統制は長期に續けられるものだらうと考へるのであります。是が今私の大きな戦争が濟んだらうどうか。統制はなくなるのでございますかと言へば、統制はある譯です。此の統制はどういふ規模で行はれるかと言へば今の計畫が之を決める。それは誰が決めるかと言へば是は國論が決めると思ふ。勿論當局者が決めるでせうが國論が之を決めることになるだらうと思ひます。そこにさういふ風になつて是非をたつ時分に於いて、一つ考へなければならぬことは日本の方から言ひますと斯ういふことが考へられる、第一に豫算から申しますといふと、日本が八十億の豫算です

其他に鐵道會計或は通信會計、朝鮮臺灣其他外地の會計等澤山ありますが、そんな特別會計を皆な考へないで……それを考へますと百何十億になるが常の豫算を考へるので、又三十億の戦争豫算、それでは拂ふことが出来ないから之を世間では八十億圓と言つてるのであります。其の八十億圓が或人から言へば此の戦争が濟んで長期戦になつても今のやうな豫算が恒久的になるのだといふ人があるのです。吾々は戦争するのは大きなことをやつて愉快になるのだ、ウントと樂になるのだと言つてるのですが、豫算の方から見れば今と同じやうな大きな規模で行くのだと言はれる、それはどうなるか分らないが、少し考へて見れば兵隊で一體維持が出来居坐つた時分にどれだけ兵隊が歸るか、歸れるかといふに餘程大きなものは居坐るでせう、やつぱり戦時經營と同じやうな兵隊が居なくちやならぬといふことになるでせう、殊にロシアが背後にあるのです。張鼓峰の時には冷々しました、どうなるかと思ひました、御心配になつたと思ふのです。まかり間違へば他人の所を俺の所と、張鼓峰を自分の所のやうに考へて、度胸は却々食へないです。あゝいふ者を隣にして居ちや、是はやはりしつかりこつちもしなければならぬといふやうなことも起つて来るぢやないか、で滿洲を護るにも更に防備が要るとい

ことになります。ロシアとは何處で接してゐるか、滿洲だけではない、今度蒙古——外蒙古又は新疆省から山西の方は共産黨が巢くつてゐる所ぢやありませんか、あの黄河が北から南に流れる所それから東に折れて行きますあの境で、共産の國であります。占領區域が決まると共産の勢力もつと區別が生れる譯ですが、今迄支那と滿洲との境に萬里の長城がある、其の萬里の長城が違つた方向に萬里の長城が出来て、それでロシアと睨んどるといふことになるのであります。國防は容易なものぢやあるまいと思ふのです。それに以て氣味の悪いのは太平洋の向ふを見ると海軍の擴張をどん／＼やつて、何ヶ年後にはウントとものが言へる、今は黙つとるが、其時は承知しないぞといふ顔をしてゐる所もある……さうしてみれば軍備縮少を唱へた日本ではあるが、向ふがやれば黙つても居れぬ、國防といふものは一體關係的の、比較的のもので絶對的のものでない、向ふからやればこつちもやるが向ふが止ればこつちもやめて良いのです。だからどうも今日迄黙つて睨んで居つても其睨み方といふものは何かもの氣味悪い凄い所がある。それは天下の事實であるから如何ともすることが出来ない。イギリスに於いて、アメリカに於いて軍備——海軍の擴張は盛んにやると、斯う言つてゐるから私は又日本でも海軍を整

備するといふことが起つて来るぢやないか、さういふ事を考へてみれば、支那の治安に應ずべく、そして此の防共といふ考から……共産主義を以て日本をやつ／＼けやうと考へて來てゐるのでありますが、コミンテルンの會議の第七大會の矛は日本、ドイツ、ポーランド、斯ういふ所に向つてゐるのです。それが防共協定が出来た所以なんです。自らを護るには備がなければならぬ、其處には非常なる兵力が要る。結論は相當な軍費を拂ふといふことになる譯です。而して今迄の戦争の爲に相當なるものを費つたのです。だからして防備といふものは使つたものを後を又、元にしなければならぬ、其儘にして置いてはいかない、武器彈藥兵糧に於きまして相當の蓄はそれは使つた、使ふから平和に直ぐなつても後に備へなければならぬ。それを考へれば容易な金では出來るものではありません。そこで先の人が今のやうな大きな軍事費が平時の費用となると、斯ういふことを言つとるのも、荒唐無稽な言として聽くことは出來ぬのかも知れないのです。さうなつたならば如何せん、戦争が長く續いて居ると同じことぢやないか、經濟財政の上に於いて日本人が何とか此の境を突破して行かうといふことになるに於きましては同じやうなことになりはせぬかと思ふ。併しそれにへたばつちやいかぬ、日本が運命

がこゝに開かれざるといふのでありますから財政的にもやつて行かなければならない、経済的に其金を何に使ふかと言へば軍備に向ひまして戦争はせぬけれ共鐵砲は使ふ、彈藥は拵へて行かなければならない、斯ういふやうなことでありますならば、やはりこゝに何と言つても鐵工業、重工業といふものが立派に出来上らなければ支那を自ら護る、さういふことは出来ないのであります。日本の國がやらなければ國防は出来ないのです。喜んで八十億圓でも出す物を作る力が無かつたならば國防は全く出来るものぢやない、そして今では日本は海上日本に非ず大陸に足が延んだ日本であるならば其の日本を立派に使命を遂げしめて行くには國防が相當に發達して行き、其の國防に拂つて來たものを拵へて行く、重工業といふものが相當に出来て來なければならぬ、更に化學工業——化學戰と云つて今の戦争は化學戰でありますから同時に化學工業といふものが立派に備つて行かなければ心配のないやうな國の構とはならない。で、ありますからさういふ所からみれば重工業、化學工業といふものは相當力を入れなければならぬいヨーロッパ戦争を考へてみましても御承知のやうに重工業、化學工業戰でソヴェエトロシアは元の木阿彌となつた。

長期建設と纖維工業 日本の偉い所は輕工業で、纖維工業は、何と云つても日本の寶でそれが日本を代表して來た、何と云つても私は世界第一等だと思ひのです。イギリスは先輩國ですが十八世紀の終り頃から綿工業といふものは非常に發達して來たのでございますから、今使つて居る機はイギリスのものは日本に及ばない。だから向ふ所敵無しと斯ういふことになるだらうと思ひます。過去を顧ればこの纖維工業といふものは波瀾萬狀を極めて、良かつたり悪かつたりしましたが、業者が其所を切抜けて築上げたもので、之を平和産業と謂ひ纖維工業とも謂ふので、綿絲布といふものが世界一となり人絹に於いても今や世界に覇を唱へるやうになつて來たのであります。で纖維工業は日本の寶であり是はどうしてもやらなくちやならないが、輕工業、之では大陸經營は出来ない。大陸經營の使命があるのに重工業化學工業が無い丁度日本の經濟の發展が輕工業を中心として力が延びて重工業化學工業に至らなかつた、其時戦争が起つた、やつて見ると足りないのです。だからもつとは是はやらなければならぬといふことが起つて來たのです。日本の經濟政策と言へば是は異論がない程重工業化學工業を盛りたて、行くことになるのであります。それにはやはり支那を抱き込めば資源が支那にあるのです。直ぐには

掘り出せぬぬがあそこを抱き込んで居ればいかにイギリス、アメリカが日本に變てこな態度をとりましても、支那をしつかり抱き込んで居れば化學工業重工業の原料は澤山なものがあると思ふのでありますからして……鐵と石炭で重工業が出来、其の石炭からして化學工業が出来るといふことになるのであります。

經濟上の政策と致しましては、どうしても支那を抱き込んで、日本の重工業、化學工業の基礎を與へるのです。是が經濟ブロックなんでありますから此のブロックでイギリスのブロックアメリカのブロックに對抗することが出来る、之をやつて行かなければならない、私が役所……商工省に居りました時分にひどい目にあつたのであります。濠洲が日本の綿絲に禁止關稅を課した、七千萬か八千萬圓のものであるが向ふから買ふのが二億圓も買つてゐるのに僅か七千萬八千萬しか買つてくれない、實に傲然たるものです。何ですか、イギリスの纖維工業を護るが爲にイギリスの經濟ブロックの範圍内に日本の品を入れないやうな政策ぢやないですか。ほつて置けば日本はいかに平和工業が盛んになつても何とかかんとか文句をつけられる、それであるからして今迄のやうな儘では幾ら輕工業が發展してもイギリスの御機嫌をそこねてはやつ

て行けないのです。だからイギリスがさういふ事をやれば俺も一つ男だといふので……こつちはこつちだけで世帯をもつのです、それをやつたら強い、もう何處へ行つても負けやしない、日本の運命は其處に行つて。それをやらなければ日本は決して雄飛する……それなくしては戦争をやつても困つたからと尻込したのぢや元の木阿彌となるのです。一度踏出して來たのです。然も戦争は天が何か此の使命を果さしめる、斯ういふやうな意味で起つたぢやなからうかと思ふのです。さういふやうな考で之をしなければならぬと思ひます。さういふ所から申すと大體の計畫といふものが出来て、其の計畫を行へるやうに日本國民が皆んな一、二、三で行かなければならぬ、で平和工業に於きましても多少從來の通りにならぬからと言つて不平を抱いてはいかない軍隊に入つたやうなもので、軍隊に入つた時分にはあの統制はかなはぬです。併乍ら軍隊生活をしてみれば何もそれが窮窟でたまらないもんではないと思ふのです。私は統制經濟は軍隊とは言へませぬけれ共、自由勝手にやつてる所を何か數字何かで決められてその範圍内でやるのだから窮窟でありませうけれ共、其處に安んじて日本は一、二、三で世界に闊歩して行かなければならぬぢやないかと思ふのです。それでありますから統制に安んず

るやうにさういふ考で統制の中に生きて氣持良く業に安んじて業を楽しむといふことにして行かなければならない、だから統制の考へて、都合の悪かつたと思ひ至らない所は直さなければならぬ、殊に今のやうなあの統制のあの方法に於いてあの程度に行へといふぢやありませんか、私は少くとも是だけの鐵砲を打つのでありますから骨だけぢやいかぬ、肉がなくならせぬ、其肉は何で養ふか、經濟です。日本の今日迄一番肉を養ふて來たのは纖維工業なんです世界の何處とも負けない此力、……此力を培養しなければならぬと思ふのであります。併乍ら棉花は入りませぬから纖維工業は駄目だと言つちやいかぬ。棉花が無ければス・フで良いぢやないか、絹で良いぢやないか、毛が無いといふなら絹で良いぢやないか、絹で良いぢやなければ麻で良いぢやないか何の纖維でも良い、其の纖維を物にするといふものが、是が日本の今やらなければならぬ所で、今過去の例を見ましても、前申しましたやうに初めは人絹もものにならぬと思つてゐたが直きにもなつたぢやないか、ス・フも今はものにならぬと思つてゐるが、併し一般が本當に力を充分に、一つ頭をひねり技術をひねつたならば人絹がものになつたやうにス・フがものになるだらうと思ふのです。それはものにならぬと言ふのは氣が短いと思

ふのです。

實は纖維試験所で、纖維の技術を培養して居るのでありますが、ス・フの事に就きましても實は濠洲との戦争に於いて、濠洲が綿絲布人絹に禁止税をかけましたから、どうしても濠洲をあつと言はせなければならぬ。お前の國の毛と小麥を買つてやらないぞ、といふ心持で黙つて見てゐた譯です。五、六ヶ月でス・フ代用しようとかゝつた譯です。其の時分にス・フはなつてゐなかつたが毛の代りといふので出發したのが實際は綿に變るといふのであります。現にドイツではス・フが入つとる、非常に發達して居るのであります。で纖維工業試験所といふを設けて、もうこの纖維の研究といふことになつてゐる、一寸言ふと此邊で斯ういふことを……ス・フは弱いといふ、是はス・フを強くする方法は幾らもありますが、其一つの考へ方は、絹で……生絲の纖維には膠みたやうな質がある、ゴムみたやうな質がある、それを以てス・フを結び付けたら非常に強い纖維が出来る、是は直ぐ工業化することが出来ると言つてゐる。だから今の生絲はアメリカが買はないやうになるかも知れない。買はないやうになつてもこつちはそれで今

のやうな色々な繊維の結付けに於いて何か物が出来るぢやないか、色々なものが出来る、非常に驚くべきものださうでありますから、それをものに致しまして、……日本にはあの繊維工業を物にする技術があるので、其の技術をそこに使つたならば私は繊維工業といふものは戦争の統制に於いて無用でない、戦争後の長期建設に於いて参るものでないと思ふ、私は日本の強味の中には繊維工業に於いて長所がある、殊に濱松地方は其の代表的なものだと思ふので、此の長所を發揮したならば戦争がいくら長びいても切抜ける、日本の國民經濟を養ふことが出来ると思ひます。支那の長期建設には日本の軍備に於いて養ふことが出来ると思ひます。さういふ點に就きまして私は技術に於いて、經濟に於いて、實際に於いては素人ではありますが、たゞ本を読んでみたり、色々な方面から斯ふ高い所から見るとどうも出来さうなんです。それを皆様にお願してみたいのです。さういふ風にして若しそれが地方に於いて棉花は旨く行かぬか知らぬが、其の代用品で之をものにするといふことに進まれたら、日本の内地で出来るもの或は日滿蒙の間に出来る繊維を以てそれで之を物にするといふやうにしたならば、私は千年萬年も榮えるぢやないかと思ふのです。それが日本の基礎になるぢやないかと思ふ、それによつて日本

が支那を經營し、大陸の主人公ともなり得ると思ふのであります。日本の永遠の發展といふは私はさういふ所に向つて進むべきぢやないかと思ふのです。今日の時代に於きましては色々な事を考へられて之に一步を誤つたならば私達の子孫に對して申譯ない。此の日本の歴史の今一番重大なる時に際會してゐる、其間には非常に苦しい事もあるが、其苦しい事を突破するのが日本男子であり、其の日本男子の運命を一つ背負つて立つ所のものは此の繊維工業ではないかと思ふ、それを私は業界にお願するのです。

昭和十四年四月二十五日印刷
昭和十四年五月一日發行

戰時經濟講話集

編纂者 商工省統計課

發行者 高山金一

東京市神田區小川町二丁目十番地

印刷者 龜谷良一

東京市本郷區瀧砂町卅六番地

東京市神田區小川町二丁目十番地

商工行政社

電話神田八一〇番
振替東京一三一五一五番

刷印社會式株刷印東日

戰時經濟講話集

定價部五十錢 三千錢

第一輯	長期建設と財政經濟の前途	大口喜六
第二輯	長期建設と經濟統制	小川郷太郎
第三輯	長期建設と經濟統制の前途	高橋龜吉
第四輯	長期戰經濟の中心問題	小汀利得
第五輯	日本產業の再編成	石山賢吉
第六輯	戰時經濟の諸問題	谷口吉彦
第七輯	<small>時局の見 透しと</small> 今後我が經濟政策	石橋湛山
第八輯	戰時體制下 <small>に於ける</small> 物資の統制	佐藤謙之助
第九輯	戰時經濟について	池田秀雄
第十輯	戰時下に於ける物の經濟	小暮武太夫

發行所 工商行政社 東京 小田原 町川 二ノ一 〇
東京 振替 東 一三 一五 五

389
119

戰時工商關係必備書

商工行政 調查會編	商工行政 調查會編	商工行政 調查會編	鹽谷狩野吉著 燃料局技師	川村英雄著 中外商業調查部長	前田梅松著	楠瀬常猪著	有賀祿郎著	都新聞政治部編	今村忠男著
商工省要覽	物資制限の 法規と解説	中小金融讀本	リンク制の話	液體燃料	これからの 經濟生活	時局と貿易	店員の採用と 教育の實際	東亞經濟協同體制	支那新幣制の話
六版	三次訂正 版	最新刊	新刊	好評	好評	好評	好評	最新刊	最新刊
定價二・五〇千・二五	定價二・〇〇千・二五	定價一・七〇千・〇九	定價四・八〇千・〇六	定價一・六〇千・二二	定價一・八〇千・二〇	定價二・八〇千・二八	定價一・五〇千・二二	定價一・八〇千・二〇	定價一・〇〇千・二〇

發行所 高山書院 東京神田小川町二ノ一
振替東京三八九三

